



2018年9月21日

## **ARTA BMW M6 GT3は、決勝を10位で終え貴重な1ポイントを獲得**

### **2018 AUTOBACS SUPER GT Rd.6 SUGO**

2018年SUPER GT選手権にBMW M6 GT3で参戦するオートバックス・レーシング・チーム・アグリ(ARTA)は、9月16日に宮城県のスポーツランドSUGOで開催された同選手権第6戦の決勝において、23番手でスタートし11位でレースを終えた。その後の公式通知により、87号車が決勝結果に37秒加算されたため、55号車は10位に繰り上げとなり、1ポイントを獲得した。

#### **公式予選**

今年のスポーツランドSUGOにおける予選はA組、B組と2つに分けられてQ1が行われた。これは狭いコースの中でより走りやすい状況を作るという試みだ。ランキング順位の奇数がA組、偶数がB組という組分けになり、現在、ランキングトップのARTA BMW M6 GT3はA組で予選に出走する事になった。

既にハンディキャップ・ウェイトが100kgに達しているため、上り勾配の強いこのサーキットでは苦戦を強いられる事が予想された。Q1を担当したショーン・ウォーキンショー選手は早めにコースインをしてクリアラップを狙ったが、ウェイトが重いせいか最終コーナーからメインストレートにかけてスピードが上がらないように見えた。アタックラップに入ったショーン選手は各セクターでトップと遜色ないタイムを刻んだが、やはり最終セクターでタイムが伸びず23位と後方に沈んだ。

#### **決勝**

ハンディキャップ・ウェイトのこともあり、チームは1点でもポイントを獲得出来るようにタイヤ・マネジメント等でポジションを上げて行く戦略を考えていた。スタートはショーン・ウォーキンショー選手が担当した。真夏を思わせるような気温でタイヤの摩耗が心配されたが、予想より高いパフォーマンスを保つことが出来た。

ショーン選手はトップ・グループと遜色無いペースで周回を重ねポジションをキープする。狭いコースでのポジション・アップに苦勞するも、20周を過ぎたあたりからルーティンのピットインを行うチームが出始め、順位を2つ上げた。迎えた24周目、ルーティンのピットインを行い、高木真一選手に交代した。

高木選手は22番手でコースに復帰し、徐々にポジションを上げ、47周目には17番手までポジションを上げる。しかし、徐々にグリップが落ち始めてきたため、高木選手はタイヤを劣る走りに切り替え、何とか最後までペースを落とさずに走りきれるように走行を続けた。ライバル・チームも、トラブルでピットインする車も出始めた。高木選手はトラブルに巻き込まれる事無く59周目までに16番手までポジションを上げた。

しかし、61周目に他車がコース・アウトしたため、セーフティー・カーが入る。高木選手は車の

コンディションを保ちながら、リスタートを待った。74周目にリスタートが切られたが、他車のペナルティや脱落もあり、12番手でレースを続けた。ポイント圏内まであと少しだったが、76周でチェッカーが振られ、11位でレースを終えた。

尚、その後の公式通知で、87号車が決勝結果に37秒加算（SpR.13 1.a「危険なドライブ行為」）されたため、55号車は10位に繰り上げとなり、1ポイントを獲得することができた。

#### **土屋圭市 アドバイザー**

「今回はポイントを獲得出来ませんでした。ランキングトップでオートポリスに行けるのは本当に驚きです。流れは我々に向いているので、この流れを引き寄せられるように気を引き締めて残りのレースを戦いたいです。」

#### **安藤博之 エンジニア**

「予選のセットからアジャストして、ウォームアップを走りレースに挑みました。23番手スタートから11位でフィニッシュ出来たのは他車の脱落もありましたが、ペースも良かったので車の仕上がりは良かったと思っています。予選が後方でなければポイントを獲得出来た可能性もあったので、今後はその辺りが課題になると思います。」

#### **高木真一選手**

「100kg 積んだ中で、車やタイヤは苦しかったです。それに耐えてくれて本当に良かったです。10位から5位を走っているチームとはそれほど大きくペースも変わらなかったと思いますし、23番手という予選順位からよく11位まで車を持ってこられたと思います。多分、ベストの車だったのではないかと、と思っています。結果的にはポイントを獲得出来なかったのは残念でしたが、ランキング上位のライバル・チームがポイントを獲得出来なかったので、残り2戦はチーム一丸となって、しっかりと戦っていきたいです。オートポリスではポイントを獲得して、ポイント・リーダーでもてぎへ行きたいです。」

#### **ショーン・ウォーキンショー選手**

「タフなレースでオーバー・テイクするのが難しかったです。100kg というウェイトを積んでいる中で、何台かパスする事ができたのは非常に良かったと思います。タイヤの摩耗もそんなに悪くなく、コンスタントに良いラップを重ねられました。ポイントは獲得出来ませんでしたが、23番手から11位までポジションを上げる事が出来たのは大きな収穫でした。」

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、  
BMW カスタマー・インタラクション・センター：フリーダイヤル 0120-269-437 を  
ご掲載ください。

受付時間：平日 9:00-19:00 / 土日祝 9:00-18:00

BMW インターネット・ウェブサイト：<http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは：  
BMW Japan Corp. 広報室：03-6259-8025（企業広報）